

東大和三中だより

平成31年4月10日

4月号 (No.1)

発行 東大和市立第三中学校

〒207-0016 東大和市仲原2-7

TEL 042-564-5411

当たり前のことをやるのは難しい

東大和市立第三中学校長 井上 敬夫

今年、平成から新しい元号「令和」に代わる節目になります。新年度の東大和三中は新入生146名が加わり、全校生徒445名でスタートしました。

4月のこの時期は、誰もが「これから頑張るぞ!」という前向きな気持ちになります。そんな中学生の皆さんが第1歩を踏み出すときに考えて欲しいことは、大それた目標を立てる前に、地に足をつけた着実なスタートを切るという心構えです。言い換えれば、「当たり前のことをきちんとやること」です。

実はこれが案外難しいのです。

例えば、小学校時代から先生を始めとする大人に次のようなことを言われませんでしたか？

「自分が嫌だと思ふことは他人にはしない。」

恐らく何度も何度も注意を受けてきたはず。具体的には「これを言われたら傷つくなあ。」と思うようなことは、自分から人には言わないように心がける態度がこれに当たります。でも、日々の生活の中でこれまで「誰も傷つけたことがない」と胸を張って答えられる人は何人いるのでしょうか？自分の言動が知らず知らずに知人を傷つけていた、という経験は誰だってあります。だからといって、人を傷つけることを恐れるあまり、誰とも口をきかないで一生を過ごすのは不可能です。(それが可能なのは、無人島での一人暮らしくらいしかありません……。)

このように考えていくと「自分が嫌だと思ふことは他人にはしない。」という当たり前のことが、とても難しいことだと実感できます。

ところで、学校の目的は、簡単に言うと勉強を教えることです。この「勉強」の中身は授業で教わる内容(国語・数学など)だけではありません。学校生活上で友達と過ごしたり、何かの行事に取り組むことも「勉強」なのです。中学校は義務教育の仕上げの3年間です。中学校を卒業するということは、社会人として一人前に生きていけることの証明と考えられます。中学校3年間は貴重だし、思った以上に短いものです。

4月の新学期。三中生のみなさんは、これから1年間をしっかりと過ごしていこうという新鮮な気持ちでスタートを切りました。

「当たり前のことをきちんとやる」

これをキーワードに日々の積み重ねを大事に生活してください。

学校経営方針

今年度、重点的に取り組んでいきたいことには下線を引いております。

子どもは周囲の大人を規範として育つ

- 生徒の良さを見つけ、前向きに評価していく。
- 情熱を持って教育に当たる。生徒は教師の姿を見て育つ。

学校教育目標

- ・自ら考え、正しく判断できる生徒（重点目標）
- ・力を合わせ、実践する生徒
- ・心温かく、思いやりのある生徒（道徳教育の充実）
- ・苦難に耐えて、やりぬく生徒
- ・健康で、たくましい生徒

本校の現状と対策

1 学力向上

学習習慣が確立していない、基礎学力が不足している、学習への意欲に欠ける面があるなど課題がある。全国学力調査や都学力向上調査の結果も芳しくない。学習意欲を高め、学力の定着を図るための努力・工夫が求められる。

★生徒の意欲を喚起する授業の工夫



学力の定着を図る学習活動の工夫

- ①活気ある授業の工夫（授業のメリハリ＝焦点化・導入の工夫、アクティブラーニングの手法 等）
→生徒が活発に「思考する」授業
- ②授業技術の向上（発問・指示の精選、板書の工夫、目標と評価の明示 等）
- ③学習習慣を定着させる工夫（ノート指導、視写技術の徹底、宿題の工夫）
- ④3年間の到達度を意識した計画的指導（入試を意識した工夫 等）

2 生活指導

暴力的・反抗的な生徒は減少している。反面、無気力な生徒や他校との関わりの中で崩れる可能性のある生徒はいる。学校生活の中で意欲向上につながる場面を見つけて、少しでも自信を持たせることで、安定した学校生活を送らせるようにする。

★生徒の個性に応じた適切な指導を継続し、心通う指導を実践する。



生徒の自尊感情を育む生活指導の工夫

- ①あいさつの励行（「おはよう」「こんにちは」「さようなら」等）

- ②自分の意見や考えを明確に表現できる生徒の育成
- ③生徒の特性に合った指導（生徒が教師の愛情を感じられる指導）
- ④全身体制での生活指導の徹底（挨拶・見回り・緊急時対応 等）
- ⑤問題を抱える生徒への共通理解、および保護者との連携

3 不登校対策

家庭的な問題、疾患を抱えた生徒が一定の割合でいる。それらの生徒は、家庭学習を行う環境にも恵まれておらず、学力不足に陥り、不登校傾向になってしまう場合が多い。学校だけでは解決困難なケースが多い中、家庭との連絡を粘り強く行うことが大切になる。カウンセラーや家庭訪問支援員、SSW、支援室ボランティア、外部機関等と連携して、少しでも生徒が前向きに生活できる援助を行う。



- ①担任を中心とした不登校生徒の状況を把握。
- ②不登校傾向が見られた場合の迅速な初期対応。
- ③保護者・本人との連絡が取れるようにして、学校とのつながり絶やさない。
(家庭訪問・SSW・青少年育成委員・民生委員等との連携)
- ④生活指導部・特別支援コーディネーターを情報の共有化。
- ⑤校内委員会による月1回の情報交換会の設定。週1回の校内委員会の設定。
- ⑥外部機関との連携と場合によってはケース会議を行って対応策を協議。

4 校内研修

生徒の学力向上を図るための指導技術の向上を目標とした校内研修会を実施していく。また、個別に指導を要する生徒が増加傾向にあることから、特別支援教育に関する研修の充実を図る。

- ①道徳教育の充実を狙いとした研究授業の実施(年3回)
- ②優れた授業実践者の見学(研修)の実施 ※指導教諭の授業公開等を参観
- ③3人組のミニ研究授業の実施

「三中日記」より 三中ホームページにて、鋭意更新中！

学校の様子を積極的に発信していきます。ぜひご覧ください。なお、生徒の個人名は載せない、真正面から撮った顔写真は使わないなどの配慮をしていきますが、掲載につきまして支障がある場合は副校長までご連絡ください。



4月9日(火)入学式の様子です。すばらしい天気にも恵まれました。保護者の方と一緒に受付をし、教室で担任の先生から入場の仕方などの説明を聞きます。いよいよ、入場。プラカードを掲げた2年生の先導で、緊張した面持ちで体育館に入りました。